

「中国地域エネルギー・温暖化対策推進会議」

「地球温暖化予測情報第9巻（詳細版）」について

<http://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/GWP/>

10月18日（水）

広島地方気象台

温暖化情報官 岡崎賢治



「地球温暖化予測情報」とは

- 地球温暖化の緩和策や適応策の検討に資すること、また、地球温暖化に関する科学的な知識の普及を目的に、平成8年度より、数値モデルによる地球温暖化の予測結果を「地球温暖化予測情報」として数年おきに公表。
- 平成25年に公表した「地球温暖化予測情報第8巻」では、中程度の温室効果ガス排出が続くと想定した場合の日本の気候変化を5km間隔で予測し、21世紀末には20世紀末と比べて、日本の年平均気温は3.0℃程度上昇することなどを予測。注) 気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 第5次評価報告書で想定されている4つの温室効果ガスの濃度シナリオのうち、2番目に温室効果ガスの排出が多いものに相当。
- **今般、防災上の意識を高める観点等から、最も高程度の温室効果ガス排出が続く場合の予測結果を「地球温暖化予測情報第9巻」として取りまとめた。** 注) 上記4つの温室効果ガスの濃度シナリオのうち、最も温室効果ガスの排出が多いもの。

「地球温暖化予測情報第9巻」(平成29年3月公表)の特徴

- 最も高程度の温室効果ガス排出が続く場合を想定。
- 実際に現れ得る様々な変動をより広く捉えるとともに、将来変化の増減傾向の信頼度を評価するため、4通りの将来予測結果を解析。注) 4つの異なる海面水温の変化パターンを与えた結果。
- 21世紀末における日本付近の詳細な気候変動を予測するため、地域気候モデルを用い、日本の7地域別に解析。

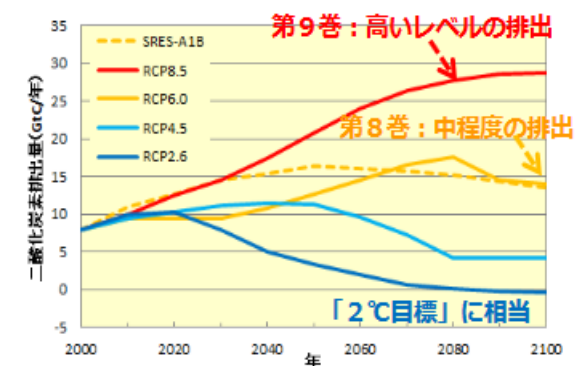
(補足) 地球温暖化対策の2つのアプローチ

- 緩和策：温室効果ガスの排出削減と吸収対策
- 適応策：悪影響への備えと新しい気候条件の利用

日本の気候特性の異なる7地域別に解析



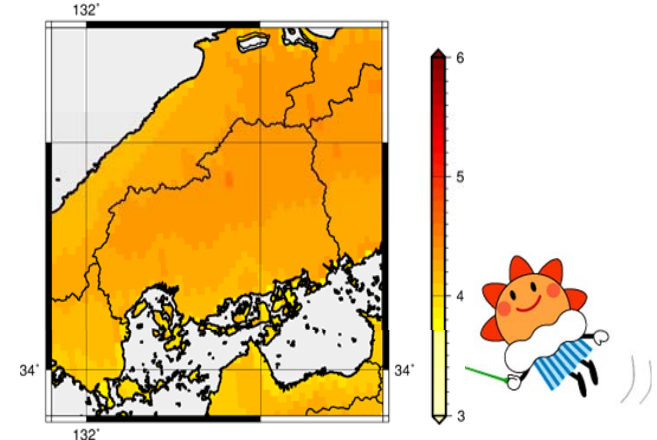
予測計算に用いた温室効果ガス排出量



県単位の情報も検討中

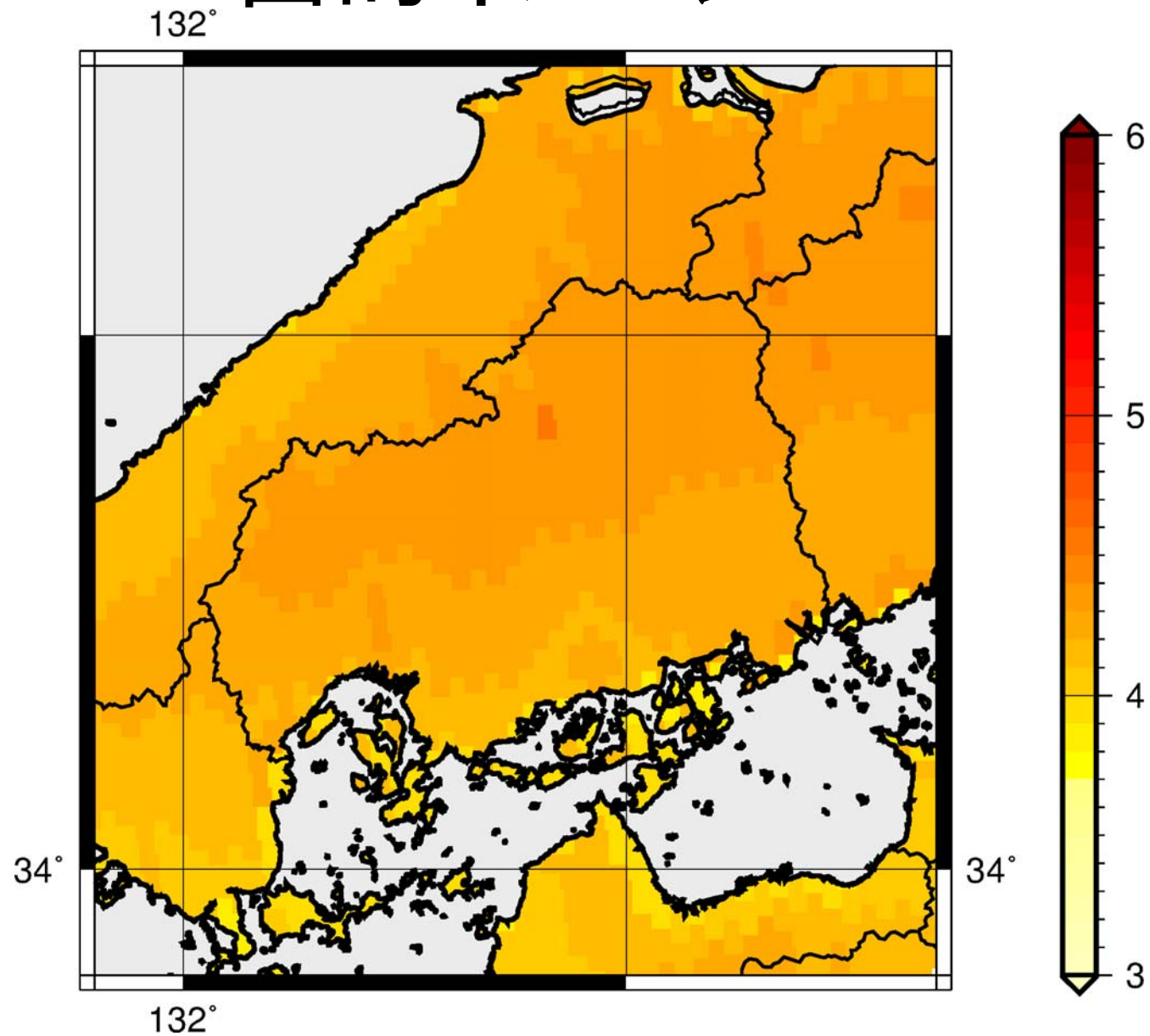
【例】広島県における気候変化の予測

- ・年平均で4.3℃、季節によって3.8～4.9℃上昇。（冬季ほど上昇が大きい。）
- ・猛暑日が、現在より26日程度増加。
（真夏日、夏日の日数も50日以上、熱帯夜の日数は46日程度増加）
- ・現在ほとんど現れないような短時間強雨が、発生する可能性がある。
- ・雨の降らない日の頻度が増加する可能性がある。
- ・最深積雪、降雪量ともに減少し、降雪期間が短くなるが現在と同程度の大雪となる可能性がある。

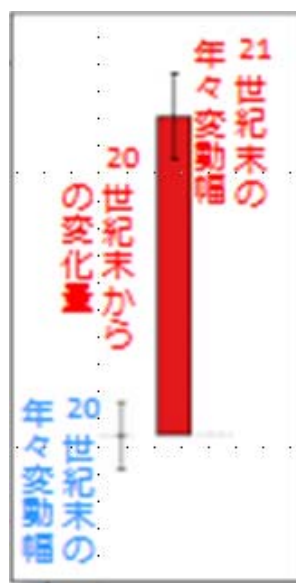


21世紀末における平均
の変化量、(単位:℃)

面的イメージ

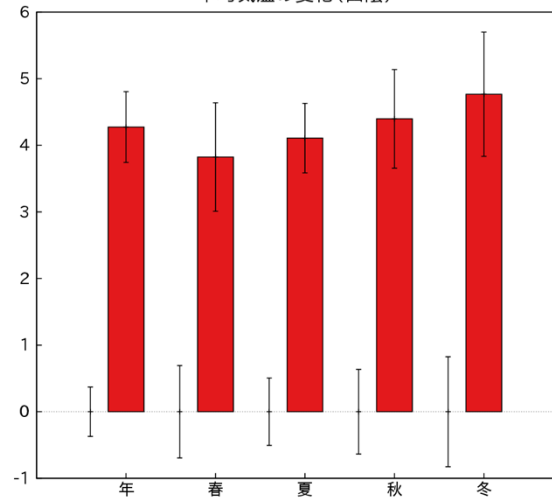


気温の将来像

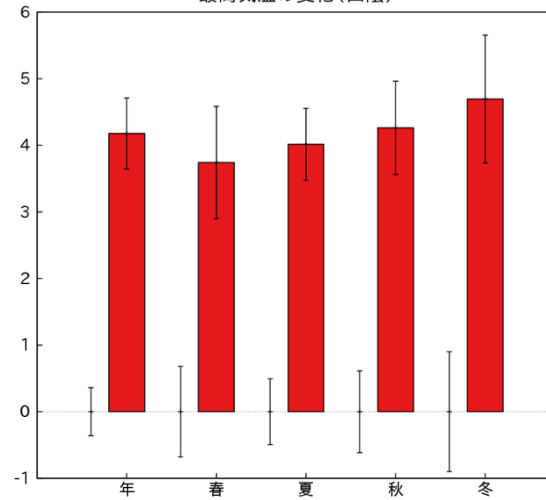


山陰

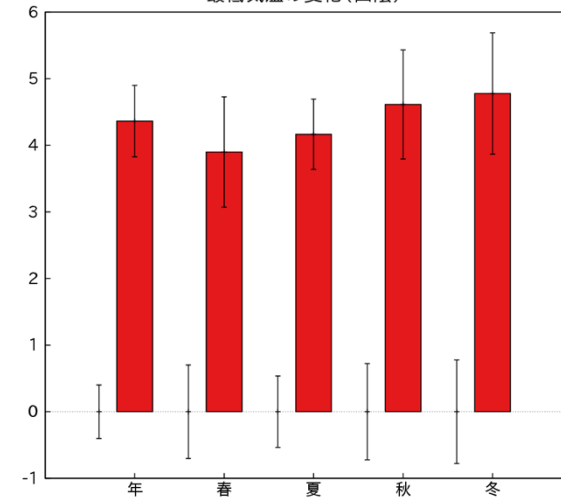
平均気温の変化(山陰)



最高気温の変化(山陰)

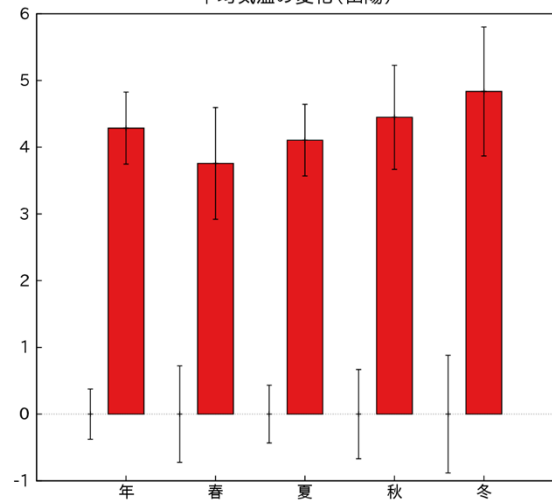


最低気温の変化(山陰)

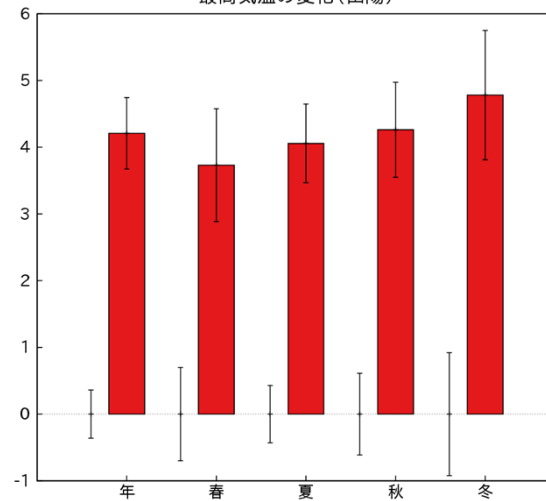


山陽

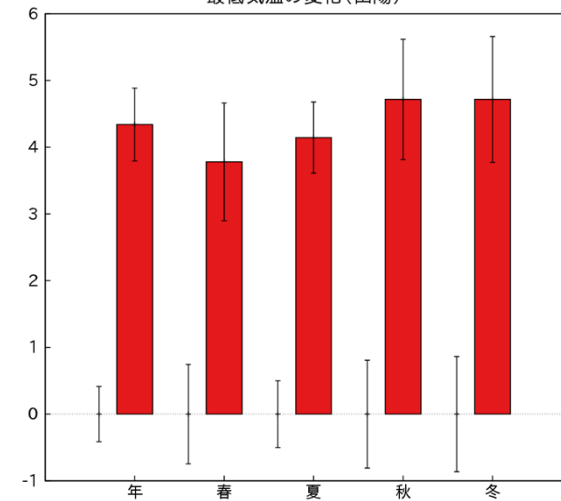
平均気温の変化(山陽)



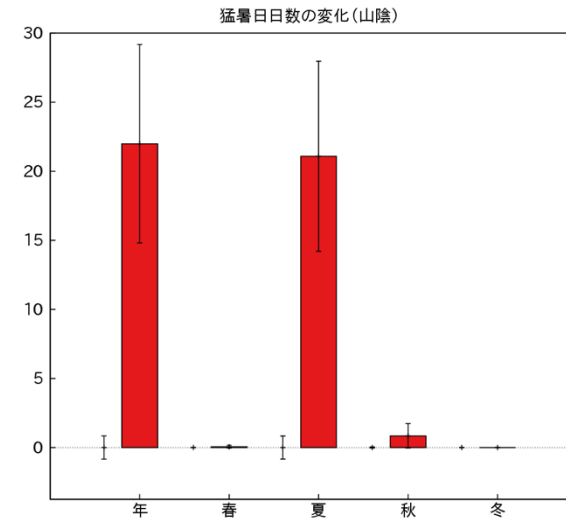
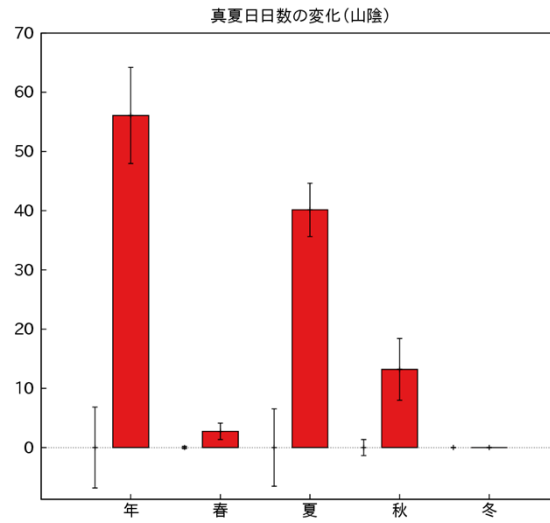
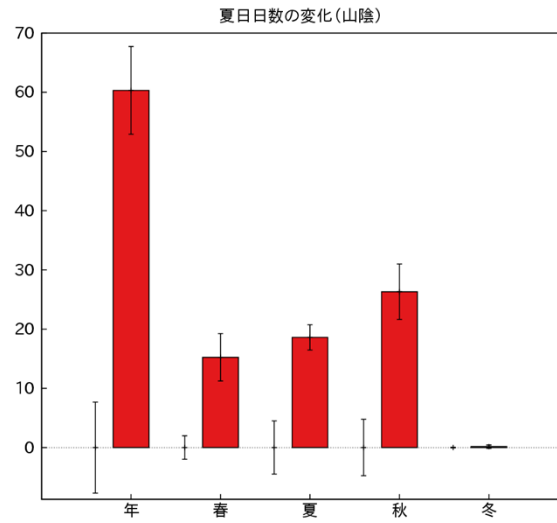
最高気温の変化(山陽)



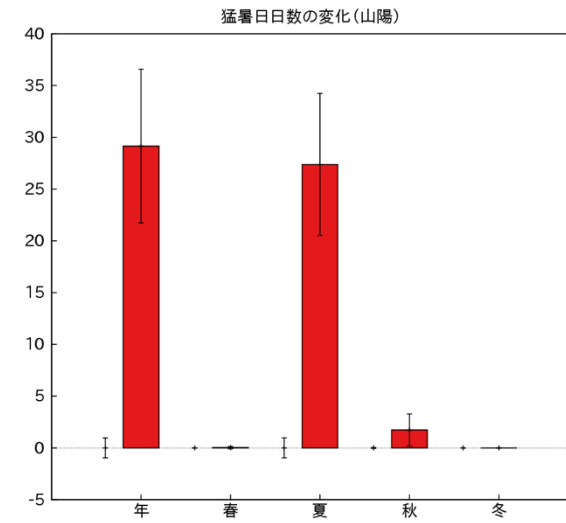
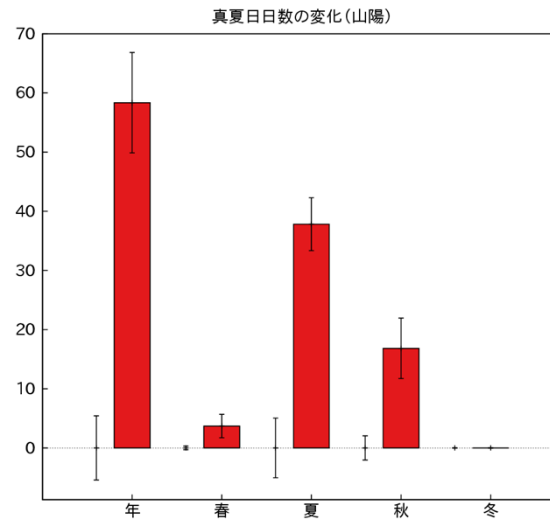
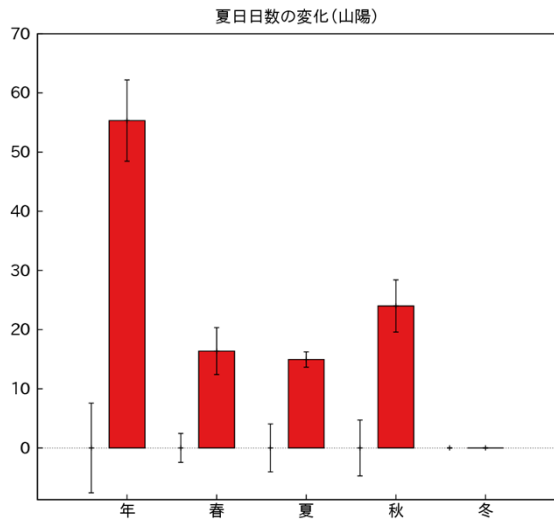
最低気温の変化(山陽)



山陰



山陽



ご清聴ありがとうございました

